

巻頭言

たゆまぬ努力を。

審議役 松 橋 数 保

技報、第8号の発刊を祝し一言御挨拶を申し上げます。

当公団が設立され、すでに27年が経過し、この間当公団をとりまく環境は極めて厳しく、必ずしも順調に事業を推進して来たわけではない。

当公団設立の数年後には、大阪で開催された万国博関連事業の完成という大きな目標に向かって邁進したが、間もなく自動車交通による公害（現在では常識になっているが、当時は公害という言葉の定義すら定かで無かった時代である。）が大きな社会的問題となり高速道路周辺住民とのトラブルにより計画面、建設面、管理面で事業の推進は大きな影響を受けて来たところである。さらに、昨今は高速道路の渋滞問題から端を発し、料金制度問題に発展しつつある。

このような状況のなかで高速道路の建設、管理に立ち向う技術者にとって困難を克服し、技術の向上に切瑳琢磨し、常にチャレンジ精神を発揮し、立派な成果をあげて来たことに大きな誇りを感じる次第である。

最近、渋滞が大きな社会的問題となっている状況のなかで、交通止めによる環状線の若返り工事が、大きなトラブルも無く成功したことは各方面にインパクトを与えたと自負している。このことは先輩はじめ諸兄の日頃の苦勞と、たゆまぬ努力の積み重ねによるものが実を結んだものと確信している。

最後に今回の技報8号の編集に関係された皆様の勞をねぎらうと共に、今後技術職員一人一人がその責務を全うし21世紀に向けて、時代の要請に呼応出来るよう不断の努力と一層の健闘を念じ挨拶とする次第である。

以 上